



登校しぶりや不登校は、・・・心の問題です

心の問題は、**目**に見えません。では、どうすれば、・・・？

◆学習を中心とした学校生活へと変わっていく6月には、・・・

6月に入ると、子どもたちが楽しみにしている教育活動や学校行事は少なくなり、・・・
学習を中心とした学校生活へと変わっていきます。
中学校や高校では、定期試験も始まります。

そのため6月になると、そのような単調な生活リズムと波長が合わず、
自分の気持ちと、学校や友だちとの「心のつながり」が希薄になりやすくなるなどし、・・・
登校しぶりや不登校のケースが出てくることがあります。
とりわけ、**学習がうまく進んでいない子どもには、・・・その傾向が強くなります。**

そのような時期のやりとりで、例えば、朝、・・・

「7時よ、いつまで寝てるの」
「今日は学校に行くの、行かないの」
「学校に行かないと、勉強が遅れるわよ」



・・・といった言葉かけをしているというお話をよく伺います。(4~5月にも多い)
「何で、学校に行かないの!」と、子どもを叱るケースがあることも聞きます。(注1)

果たして、このようなやりとりをくり返して、状況は、改善していくのでしょうか。

◆「目に見えるもの」(=行動)から変えようとする、・・・

親の不満を伝えても、不安を煽っても、叱っても、登校しぶりや不登校は改善しません。(注2)
むしろ、そのようなネガティブな言葉かけは、・・・言えば言うほど悪循環です。
でも、思わず言ってしまう。
つまり、**親は、子どもの良くない所を指摘して、それが良くなるようにさせようとするのです。**

では、「いったいどうしたらいいの」ということになりますが、・・・
最も基本的なことで、はっきり言えることは、
「目に見えるもの」(=行動)から変えようとしなさいことです。



例えば、学校に行かせようとして、登校(=行動)を求めたりすると、ほぼ失敗します。
場合によっては、状況がこじれることも起こります。

◆「目に見えるもの」に働きかけていても、変化は生まれません！

登校しぶりや不登校の「本質的な要因」とは、・・・心の問題です。

心の問題は、目に見えません。

ですから、「目に見えるもの」に働きかけている限り、その働きかけは、登校しぶりや不登校の改善には繋がっていないと考えてよいと思います。

上で述べた朝のやりとりを例にすると、・・・

寝ている起きているは、目に見えます。

学校に行く行かないも、目に見えます。

勉強が遅れる遅れないのも、テストや成績を見れば分かります。



これでは、子どもに変化は生まれません。

◆心にポジティブに響く心づかいが、・・・何より大切！

登校しぶりや不登校の改善を図るためには、・・・

「**不登校の本質的な要因**」(**最重要**)を理解し、(注3)

その要因を踏まえた**機転ある対応**をしていくことが不可欠です。



例えば、「今日、学校はどうするの」と、「目に見えるもの」(=行動)を尋ねるのでではなく、「今日、学校はどうしたいの」といった具合に、・・・

子どもの心に、そっと問いかける話し方を心がけることが、とても大切になってきます。

日頃の日常的なやりとりの中に、そのような心にポジティブに響く心づかいがあると、・・・
子どもの心は安定し、元気を取り戻し、学校へと向かう気持ちは膨らんでくることでしょう。

文責 西村明倫 (不登校カウンセリング「クローバー」代表)
公益社団法人日本心理学会認定心理士、メンタル心理カウンセラー 他

参考文献・補説

注1 子ども自身、「なぜ自分が学校に行けないのか」よく分かっていないケースは、とても多いです。
したがって、子どもに「不登校の理由」を尋ねてみても、子どもには、うまく説明ができません。
仮に、理由が聞けたとしても、それが、的を得ているものかどうか、定かではありません。

注2 「大人になることのむずかしさ」 河合隼雄 岩波書店 2014.2.14
筆者は、不登校の要因探しをしていても、不登校の改善にはつながりにくいことを述べている。

注3 「不登校の本質的な要因」については、6月「不登校対策セミナー」等でお伝えしています。